

第3学年A組 英語科学習指導案

指導者 瀧澤 美里

場 所 英語教室

1 単元名（題材名） Stage Activity1 My Activity Report (NEW HORIZON English Course3)

2 本校の研究との関わりについて

本校研究主題

問いをもち、自ら追究していく生徒の育成

～分かる、できる、楽しいと実感できる授業の実践～

英語科の研究主題

思いや考えを伝え合うために、意欲的に表現しようとする生徒の育成

研究主題を具現化し、目指す生徒の姿に近づけるために、本教科では以下の具体策を講じてきた。（★は本時で行うもの）

- ・基礎的・基本的な知識や技能の習得を図るために、授業における既習事項の継続的な指導を行う。
- ★生徒がその場で自分の考えを伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる力を高めるために、様々な学習形態を用いたり、パフォーマンステストや帯活動などを取り入れたりする。
- ・生徒が既習の表現を適切に用いて、辞書やICTを効果的に使いながら、事実や自分の考え、その根拠を話したり書いたりするなどの伝え合う活動の充実を図る。
- ・自分たちの生活と関連付けるなど、必然性のあるコミュニケーションの場面を設定し、聞き手や読み手などに対して相手意識をもった言語活動を行う。

3 単元（題材）の目標

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|--|
| Unit3 までの学習事項（言語材料）の形・意味・用法を理解し、自分の経験やほかの人へのメッセージを即興で話したり、まとまりのある文章を書いて発表したりすることができる。 | 自分に取り組んできた活動について知ってもらうために、経験や他の人へのメッセージを即興で話したり、内容についてやり取りを通して原稿を推敲し、まとまりのある文章を書いて発表したりできる。 | 自分に取り組んできた活動について知ってもらうために、経験や他の人へのメッセージを即興で話したり、内容についてやり取りを通して原稿を推敲し、まとまりのある文章を書いて発表したりしようとしている。 |

4 生徒と単元（題材）

(1) 生徒について

運動を好む活発な生徒が多く、学校行事に主体的に臨もうとする姿が多く見られる学級である。授業を理解したい、学んだことを活用したいという意識が強く、発言したり積極的に質問したりする雰囲気がある。一方で、

家庭学習の取組状況が芳しくなく、基礎的・基本的な内容が定着しないまま中学3年生になり、苦しさを感じている生徒も多い。

英語について、「英語は将来社会に出たときに役立つ」と考える生徒が37%いる一方で、英語が「どちらかと言えば好きではない」、「好きではない」という生徒が30%いる。短時間での帯活動を毎時間行うことで、インプットやアウトプットの量を増やし、基礎的・基本的な知識や技能を定着させられると考え、取り組んでいる。また、授業の目標や言語活動について、目的や場面を明確にすることで「分かる、できる、楽しい」と実感させ、苦手意識の克服につなげられると考える。

(2) 単元(題材)について

本単元では、これまでの経験を振り返り、英語で活動報告(My Activity Report)を行う。中学3年生の秋は、部活動や係、委員会などの活動に一区切りがつく時期である。ほとんどの部活動は引退したり、最後の試合や発表に向けて練習したりしている。委員会についても、3年生が主として活動するのは残り1ヶ月となり、後輩に引き継いでいく時期である。これまで自分が取り組んできたことを文にまとめ、それを相手に伝える活動をすることで、自分の中学校での活動を客観的に振り返り、成長を認知することができる。また、後輩や聞いている人へのメッセージを送ることで、相手意識をもってスピーチを考えられるだけでなく、学校の一員であるという帰属意識を高められると考える。

(3) 指導について

本単元の指導において働かせたい見方・考え方は、ALTや後輩たちに3年生の活動報告をするために、これまで学習した内容から自分の活動報告に適した表現を用いること、また、仲間の即興的な活動報告を聞き、より詳しい内容にするために質問やアドバイスをしたりしようとするところである。そのため、活動報告に必要な語彙や表現を学ぶとともに、相手の活動報告をより具体的にするために、多角的な見方で聞き、考える姿勢を育てたい。

本校は規模が小さく、生徒はお互いの活動についてよく知っているため、改めて活動報告をし合うこと、その上それを「英語で」し合うことに意義を見出すことが難しい。そのため、以下の2点を目的と場面として設定したい。

①小学校のALTに、日本の中学生の活動について紹介する。

②小学校の後輩たちに、西仙北中学校の生徒の部活動について紹介する。

単元の終わりには活動報告を録画して、実際に小学校に送り、これらの目的と場面を共有することで、生徒は相手意識をもって取り組むことができると考える。

活動報告をするためには、自分の所属について(現在形)、活動実績や経験について(過去形や現在完了形、現在完了進行形、help+人+動詞の原形)、これからについて(未来形)、メッセージ(命令形、want+人+to動詞の原形)など、これまで学習してきたさまざまな文型の活用が必要とされる。教科書のモデル文の表現やWord Roomにある語彙を繰り返し練習したりペアでゲーム感覚で練習したりすることで、既習内容についての復習をし、活動報告をするために必要な語彙をインプットさせたい。

また、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け定着させるために、普段の授業に於いて、アウトプット活動、リスニング活動、語彙構築活動などを帯活動として行っている。STEP2では即興で活動報告をする場面があり、普段の授業の帯活動のように自由に、しかし既習事項を生かしながら積極的に伝え合い、その中で「伝えたかったが何と云って良いかわからず伝えられなかったこと」を大事にし、ペアやグループで助言し合いながら、活動報告をリライトさせたい。

5、単元の評価規準と指導計画、及び評価の計画

(1) 単元の評価規準

| 知識・技能【知】 | 思考・判断・表現【思】 | 主体的に取り組む態度【態】 |
|---|---|---|
| Unit3 までの学習事項（言語材料）の形・意味・用法を理解し、自分の経験やほかの人へのメッセージを即興で話したり、まとまりのある文章を書いて発表したりする技能を身につけている。 | 自分に取り組んできた活動について知ってもらうために、経験や他人へのメッセージを即興で話したり、内容についてやり取りを通して原稿を推敲し、まとまりのある文章を書いて発表したりしている。 | 自分に取り組んできた活動について知ってもらうために、経験や他人へのメッセージを即興で話したり、内容についてやり取りを通して原稿を推敲し、まとまりのある文章を書いて発表したりしようとしている。 |

(2) 単元の指導計画及び評価の計画（4時間）

| 時 | 主な学習活動〔活動形態〕 | 教師の支援 | 評価規準【観点】〔方法〕 ○…「記録に残す評価」 ◎…「指導に生かす評価」 |
|-----------|--|--|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> モデルの活動報告を聞き、その要点をメモする。 活動報告に必要な語彙や表現を練習する。 | <ul style="list-style-type: none"> 全てを聞き取ろうとするのではなく、要点を捉えられるように助言する。 生徒が自分のペースで何度も練習できるように、デジタル教科書を使って練習させる。 | ◎モデルの活動報告を聞き、その要点を捉えてメモしている。 【知】〔教科書のメモ〕 |
| 2 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> 活動について報告したいことのメモを作成し、即興で活動報告をする。 活動報告の内容がよりよくなるように、生徒同士で質問やアドバイスをし合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 文章ではなくキーワードをメモするよう助言する。 アドバイスや質問をしやすいよう、何に気をつけて聞けばよいのか、聞く際のポイントを確認する。 | ◎即興で活動報告を行い、その内容について質問したりアドバイスしたりしている。 【思】〔活動の観察〕 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 仲間からの質問やアドバイスを参考に、原稿を推敲する。 自分の活動報告を、原稿を見ずにメモだけで言えるように、メモの準備と練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を意識できるように助言する。 文章ではなくキーワードをメモするよう助言する。 | ◎仲間からの質問やアドバイスを参考に、原稿を推敲している。 【思】〔ワークシート〕 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 発表の練習を行う。 活動報告会を行う。 掲示用の原稿をタブレットに入力する。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手意識をもって発表できるよう、1・2年生で学習した発表のポイントを確認する。 | ○自分に取り組んできた活動について知ってもらうために、まとまりのある文を発表しようとしている。【態】〔発表〕 |

6 本時の展開 (2/4 時間)

(1) 本時のねらい

即興で活動報告を行い、その内容について、質問したりアドバイスをしたりすることができる。

(2) 学習過程

| 主な学習活動 <input type="checkbox"/> 生徒の姿 | 形態 | ◇教師の支援 ●つまずきの見られる生徒への手立て 評価規準と方法【観点】[方法] 《本校研究との関わり》 |
|---|--|---|
| 1. Greetings <input type="checkbox"/> あいさつをする。 2. Warm-up <input type="checkbox"/> Topic talking を行う。 3. Review <input type="checkbox"/> 前時の学習内容の復習を行う。 | 全体 ペア 全体 ペア | ◇英語学習の雰囲気を盛り上げられるように、明るい雰囲気で行う。 ◇積極的に話せるよう、生徒が興味をもてるお題を提示する。《★》 ◇本時の活動の練習になるよう、topic について、必ず一度は相手に質問をすることをルールとする。《★》 ●机間指導しながら、会話が續かないペアに助言する。 ◇復習しやすいように、最初は全体で確認した後で、ペアでの復習活動を行う。 |
| Today's Goal : 即興で活動報告をし、仲間の報告がより具体的になるように、質問したりアドバイスをしたりしよう | | |
| 4. Preparation <input type="checkbox"/> 自分が報告したいことについて、キーワードを書き出す。 <input type="checkbox"/> 質問やアドバイスをする際のポイントを確認する。 5. Activity <input type="checkbox"/> 話し手は即興で活動報告をする。 <input type="checkbox"/> 聞き手は相手に質問やアドバイスをする。 <input type="checkbox"/> グループを変えて、同じ活動を行う。 6. Taking notes <input type="checkbox"/> 自分が話した文を書き起こし、質問やアドバイスされたことをメモする。 7. Reflection <input type="checkbox"/> 本時の振り返りをする。 8. Greetings <input type="checkbox"/> あいさつをする。 | 個 全体 グループ グループ 個 全体 | ◇文章ではなく要点のみのメモを書くよう、メモの書き方を助言する。 ●必要に応じて、辞書やタブレットを使用させる。 ●何を質問したらよいかわからない生徒のために、ヘルプシートを配付する。 ◇聞き手が的を絞って聞けるように、キーワードを見せながら発表するよう指示する。《★》 ●机間指導しながら、即興で話せない生徒や質問やアドバイスできない生徒に助言する。 ◇完璧な文章にならなくてもよいことを伝える。 ●必要に応じて、辞書やタブレットを使用させる。 ◇次時につながる振り返りができるように、視点を与える。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 即興で活動報告を行い、その内容について、質問したりアドバイスをしたりすることができる。【思】[活動の観察] </div> |